

第156話 中山の観音信仰 その2 中山町 歴史散策

岩谷村から十数人の行者姿の同行者が、遠く秩父三十三観音詣に出立したのは、寛永13年（1636年）のことでした。一行が秩父第二十二番札所唯信寺に参詣した折、奉納した浄財は次のようでした。

先導信誓 500銅  
 権助、久作 200銅  
 小七、善吉、善九郎、久助 100銅  
 与兵衛、与左衛門、伝吉、勘五郎、六助、藤兵衛、文六、徳助、50銅  
 一本町梅ヶ枝町

鈴木辰五郎家文書より  
 いずれも、当時としては宿1泊分に相当する50銅を最低に、500銅もの寄進をしていることから見ると、度重なる参詣で顔なじみとなっていたのかも知れず、何泊かの世話をいただいたのか、あるいは観世音菩薩の勧請があったのであろうと思われる。

延宝5年（1677年）12月、岡村の地蔵講中17人が、傷んだ岡千手観音堂の修理を行ったことが、同堂の棟札に残されていて、貞享5年（1688年）岡千手観音堂で「阿遮羅明王護摩供養」を行い、「此処八幡転為福山中繁昌所」と木札に記されています。

このように、観音堂では盛んに参拝祈禱が行われたらしく、宝永7年（1710年）土橋村差出明細帳では、信仰

対象も複雑になって、月山大権現、観音堂、三島大明神、鹿島大明神、阿弥陀堂、荷渡り堂、両所権現、稻荷明神社、熊野権現、薬師堂、山神社などが分請されていることがわかります。大方は、明神や権現のような人格化された神々が多い中で「荷渡り堂」なる社は、川港の荷揚げや荷積み の安全を祈願する、やや機能を重視した珍しい神々も含まれています。

享保20年（1735年）9月、文新田地蔵講橋に、初の十八夜供養塔が建てられました。願主12人、町内にある十八夜供養塔9基のうち、最も古いのがこの碑で、以来、岩谷信仰や最上三十三観音供養碑が次々と建立されていきました。

したがって、各集落に建てられた観音堂や石碑を信仰心のよりどころとし、さらに、岩谷十八夜観音、岡千手観世音は村落の人々のほか、近隣諸村、遠く他領からの信者を迎えることになりました。また、女性を中心とした最上三十三観音巡拝は、旅の楽しみや見物、会食などの娯楽性を加えながら、文化文政期には、ごく近い範囲に巡拝路を設けたり、1か所に観音像を祀ることも盛んになりました。

※引用 中山町史 中巻 第10章第1節 庶民と信仰

私たちが地域おこし協力隊です！ No.23

協力隊一大ニュースが！2月半ばより新しい協力隊の方が増えました！詳しいプロフィールなどは4ページに掲載されていますが、伊藤さんが中山町の協力隊として新たに着任されました。左治木・前田着任以降もずっと募集はしていたのですが、なかなか着任まで至らず、3年目に突入する左治木・前田としても自分たちのやってきたことを引き継ぐ方ができてホッとしています。ここの連載も今までは左治木・前田で書いていましたが、伊藤さんも含めた3人で書かせてもらうこととなります。改めて3人になった協力隊をよろしく願いいたします！



新メンバーとの記念写真

さて、いよいよ4月3日より、九左衛門の一般公開がスタートします（10ページに関連記事）。今回の一般公開に向けて、協力隊も色々な物事を作ったり考えたりしてきました。昨年の活動報告会でもお話しさせてもらいましたが、着任して2人で「どういう形になるにしろ公開するならまずは片付けや掃除が必要なのではないか」というところから出発して1年目があり、今年は具体的に公開に向けて必要な物事を揃えていくことが主だったように思います。左治木・前田それぞれの得意分野に立って動いていくことも1年目より増えました。なんだか感慨深いような、長いような短いような気持ちもしますが、一般公開がゴールというわけではありません。あくまで「柏倉家の良さを伝え残すにはどうすれば良いか」ということに対しての一つのやり方だと個人的には考えています。関わる人が変化していてもそこだけは常に考え続けてほしいし、ブレないでほしいなと願っています。ぜひ、今まで九左衛門に来たことがない方も、来たことがある方も足を運んでいただければと思います。そしてこっそり「あ、ここは協力隊がやったのかな？」というポイントを見つけてもらえるとうれしいです！

●協力隊への問い合わせ先● メール：nakayamanonaka@gmail.com 事務所：中央公民館2階